

ふながた

若鮎物語

～半世紀の軌跡～



町制施行50周年記念誌



町制施行50周年を迎えて

舟形町長 伊藤和昭

昭和29年12月旧舟形村と堀内村が合併して、ちょうど半世紀を迎えることとなりました。50年の月日は世界そして日本のみならず、この舟形町も近代化の時代を超え都市化への進展を享受してきました。多くの町の先人たちが町発展のために流した汗は、町の産業振興、社会資本の整備、福祉の向上など町民の幸せのために確かな足跡を残してきましたことは、本誌を見るだけでもその功績は多大なものと感じます。

昭和33年に町の第一次基本構想ともいべき舟形町建設計画を策定してから、現在、第五次の基本構想に向けて行政運営を進めておりますが、その間、産業構造も亜炭産業から農業へと転換され所得向上を果たし、生活様式も文化的になり、福祉の向上や環境整備など様々な事業展開を行い、豊かで住みよい町へと変遷してきました。しかしながら、その反面、過疎化による農業後継者の不足や少子化現象など、地方においては大きな問題が持ち上がってきています。地方行政の運営についても、ここ10年の間で国の財政情勢と相まって厳しい状況を迎えているのが現実です。

こうしたなかで、昨年、新庄市と合併するための法定協議会が立ち上げられ、1市1町の合併が進められましたが、今年6月に県内初という住民投票が行われました。その結果、反対多数で新庄市との合併は破綻となり、こうした意味において今年、町制施行50周年の節目とともに町民が自立を選択した「自立元年」の年とも言えます。

今、町では、第5次の基本構想のもとに、「ひとり一人が大切にする町」を目指し、町民の皆様と協力しながら「人」がいきいきと生活出来るような「環境」を整備しつつ、先人たちから受け継いだ豊かな自然をこれからも「未来」を担う子ども達に継承していくことの使命を痛感しているところであります。

自治体を取りまく社会情勢は誠に厳しいものがありますが、町民の幸せのために行政もこうした先人に負けないくらいの輝かしい足跡を残せるよう努力していきますと共に、関係各位の尚一層のご理解とご協力をお願い申し上げ、このたびの町制施行50周年記念誌を発刊するにあたりあいさつと致します。

平成16年11月1日



町章

舟形の「舟」を図案化したもので、町の融合と平和を意味し、輪郭はダイヤを型どり地下資源と合せて町の繁栄を象徴したもの。

まちの木.....えんじゅ
まちの花.....こぶし
まちの鳥.....きじばと
まちの魚.....鮎
まちの色.....みずいろ



目次

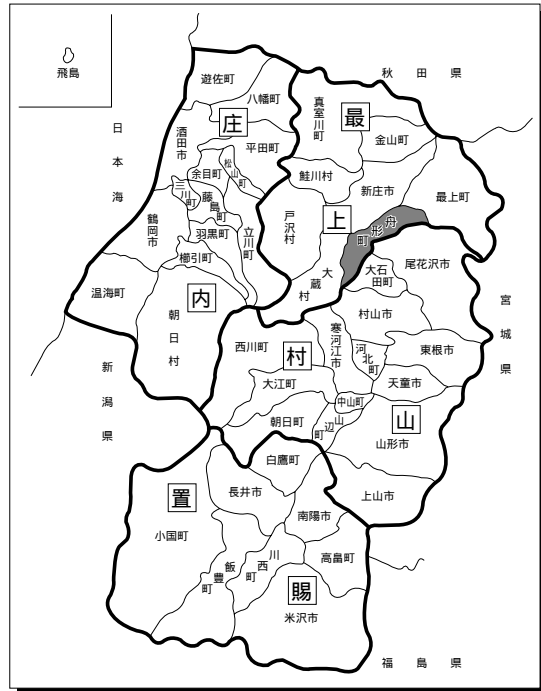
町のおいたち、位置と地勢	4
歴代の町長・議長	5
50年の年表	6・7
村から町へ	8・9
各年代のダイジェスト	10～19
半世紀 ～足跡をたどって～	20～71
資料編「自然」「昔と今」	72・73

町のおいたち

本町の区域は藩政時代には旧新庄領に属しており、その後、明治4年の廃藩置県などいくつかの行政制度変遷を経て、明治22年に現在の前身である「舟形村」が生まれました。翌23年11月に堀内地区が分村し、以来80年余にわたり舟形村、堀内村として歴史を重ねてきました。昭和28年の町村合併促進法の施行に伴い、翌29年12月1日、両村が合併し、現在の「舟形町」が誕生しました。

町の位置と地勢

本町は、山形県の北部最上郡のほぼ南端に位置し、南北6.5km、東西27.4kmと東西に細長い地形になっており、総面積は119.03km²の町である。奥羽山脈、出羽丘陵の山麓に囲まれ最上川に注ぐ小国川と松橋川の2流域に区分され、耕地及び集落は2つの河川沿いに広がりをもち、町土の7割を占める山林に囲まれている。土地利用の現況については、農用地13.9%、森林70.4%、原野0.2%、水面・河川・水路3.0%、道路2.4%、宅地1.1%、その他9.0%となっている。本町を大別すると、長沢、舟形、長者原、富田、堀内の5地区に区別することができ、34町内会36地区からなっている。



町役場の位置
山形県最上郡舟形町舟形276番地

人口(平成16年9月30日現在)
男 3,321人
女 3,460人 計 6,781人

気候
気候は、内陸性で冬季夏季の寒暖の差が激しく、冬季間は最上川の峡谷部を吹き抜ける北西の季節風が強く毎年11月下旬から3月までは積雪深2~3mとなり、夏季間は内陸性の盆地的気象で蒸し暑くなります。気温は月平均最高気温が23.3、月平均最低気温が-1.6で、月平均気温が10以上ある月は5~10月までの6ヶ月間となっている。また、風向きは主に北西風、風速は2.4mでしばしば北太平洋から奥羽山脈の鞍部を越えて冷涼な気流が入り込み、冷害になりやすい気候となっている。



本坑撰炭工場 ~ 舟形駅前貯鉱舎間のエンドレス輸車路

歴代町長



初代 星川 曠太郎



2・4代 奥山 与市郎



3代 星川 五郎兵衛



5~6代 澤内 甚一郎



7・10代 沼澤 長吉



11~13代 鈴木 勝治

歴代議長

初・3代 中山 敬治郎

15代 伊藤 道五郎

2・5~6代 渡辺 忠五郎

16~25代 加藤 俊正

4代 澤内 甚一郎

26代 佐藤 勝

7~14代 伊藤 允一



S26年 堀内村々議会議員



S27年 舟形村々議会議員

ふながたの歩み 50年

1954（昭和29年）
12月1日町制施行
人口12,007人 1,989世帯

1955（昭和30年）
初の町議会議員選挙
三光堰竣工
町連合婦人会発足
町連合青年団発足

1956（昭和31年）
町立長沢小学校改築落成
斎藤茂吉翁歌碑落成（猿羽根山）
堀内橋竣工

1957（昭和32年）
舟形・堀内農業共済組合併
舟形町農業委員会委員初選挙
町役場6課を4課に（税務・厚生・経済・土木）

1958（昭和33年）
富長橋架替工事着工
町初の公営住宅15戸完成
富長小学校新築移転授業開始
太郎野地区開田事業着工

1959（昭和34年）
長沢小学校竣工
東長沢駅竣工 大平・鼠沢・太郎野・西又各分校竣工

1960（昭和35年）
猿羽根山隧道貫通
長尾橋起工

1961（昭和36年）
舟形町で初の保育園誕生（66名入所）
舟形小学校でミルク給食始まる
堀内中学校落成
舟形町商工会発足
町営火葬場竣工

1962（昭和37年）
国道47号線1級国道に昇格
郡内初のホップ栽培（長沢）
初の老人クラブ誕生（長者原）
長沢診療所新築落成

1963（昭和38年）
舟形中学校卓球女子ダブルス県優勝
国道47号線道路改良工事竣工

1964（昭和39年）
役場前十字路に初の信号機
震度5の地震に見舞われる（新潟地震）
大洪水・冠水田畑70町歩
衛生組合誕生
桧原沢開田竣工
舟形小学校・堀内児童館落成



1965（昭和40年）
舟形保育園新築落成
舟形保育所・富長・堀内児童館町営として発足
舟形町老人クラブ連合会発足
舟形町振興審議会発足
長沢児童館落成

1966（昭和41年）
長沢小・中学校完全給食開始
野田地区開田工事起工
富長児童館完成
長者原橋竣工
舟形中学校理科クラブ「日本学生科学賞」受賞

1967（昭和42年）
町初の農業振興懇談会
白バラ会発足
洲崎橋落成
舟形町庁舎新築起工

1968（昭和43年）
舟形橋に歩道橋完成
新町内会「西堀」誕生
町消防団消防長官賞受賞
裏の山圃場整備起工

1969（昭和44年）
舟形中学校理科クラブ「文部大臣賞」受賞
舟形第一次簡易水道工事着工
舟形中学校米飯給食開始
富田ホーヤ沢開田落成（75ha）
堀内母子センター起工

1970（昭和45年）
老人家庭奉仕員制度生まれる
過疎地域に指定
最上川堀内築堤落成
猿羽根山観光事業竣工（大鳥居・休憩所）
舟形町第一次簡易水道竣工

1971（昭和46年）
堀内小学校実栗屋分校閉校
堀内小学校新築起工
猿羽根山相撲場落成
町民プール完成オープン

1972（昭和47年）
山村振興地域に堀内地区認定
新農協発足
猿羽根山展望台落成

1973（昭和48年）
青年センター完成オープン
広域消防舟形分署開設
平沢地区地くずれ（奥羽本線20日間余不通）
企業誘致ウツシカワ縫製工場操業

1974（昭和49年）
舟形駅無人化反対町民総決起大会
長尾橋完成
豪雪対策本部設置
奥羽自動車部品工業着工
身体障害者療護施設「光生園」着工
集中豪雨（被害額約11億円）
舟形町中央公民館落成

1975（昭和50年）
重度身体障害者療護施設「光生園」オープン
舟形保育所増改築
奥羽自動車部品工業操業開始

1976（昭和51年）
集中豪雨（被害総額14億円）
冷害対策本部設置
町営住宅完成（4階16世帯）

1977（昭和52年）
除雪センター完成
町民グラウンドにナイター施設完成
国道13号線舟形大橋完成

1978（昭和53年）
町営住宅完成（4階16世帯）
舟形駅無人化に
三光堰改修事業スタート
水田利用再編対策スタート

1979（昭和54年）
亀割バイパス着工
太折地区鉱害復旧事業完成
温泉ポーリング行方（野地区）

1980（昭和55年）
記録的な豪雪（2/4西又分校で285センチメートル記録）
農村総合整備計画策定
異常低温続く（冷害）
新過疎地域振興計画策定
ハリヨ地区垂炭鉱害復旧事業完成

1981（昭和56年）
B&G舟形海洋センター完成
長沢保育所完成
民族資料館完成
統合中学校建築開始
商工会館完成
西又分校廃校

1982（昭和57年）
B&G上屋付プール完成
松原アユセンター完成

1983（昭和58年）
保健センター完成
南部保育所完成
統合中学校開校

1984（昭和59年）
庁舎改修事業着工
公営住宅建設事業着工
農林漁業体験実習館着工

1985（昭和60年）
太郎野・大平各分校閉校
山交バスに代わり、町営バスが運行（上長沢～木友）
農林漁業体験実習館オープン

1986（昭和61年）
三光堰融雪災害
農村環境改善センター完成
烏川大橋開通

1987（昭和62年）
国道47号バイパス長尾トンネル貫通
第1回東北鞍馬競技舟形大会開催
長沢あいさつ橋開通

1988（昭和63年）
長沢小学校新校舎完成
舟形保育所完成
猿羽根山スキー場オープン（ナイター完備）

1989（平成元年）
舟形町きれいな水づくり推進協議会設立
第4次舟形町基本構想「ハビネスシップふながた」策定
県より第1回優良納税市町村表彰受賞

1990（平成2年）
県内初の地籍情報管理システム導入
ウド山斎場完成（舟形町・大蔵村共立）
過疎地域活性化計画策定

1991（平成3年）
猿羽根山トレーニングセンター完成
富長小学校新校舎完成
長沢八景の句碑完成

1992（平成4年）
舟形児童館完成
主要地方道大石田・畑線 堀内バイパス完成
国道47号線 亀割バイパス完成
4,500年前の遺跡発掘（西の前地区）

1993（平成5年）
観光物産センター・医療サービスセンターオープン
主要地方道新庄・村山・次年子線 富田地区バイパス完成
舟形若あゆ温泉オープン

1994（平成6年）
特別養護老人ホーム「えんじゅ荘」オープン
高規格道路舟形トンネル貫通
「福祉のまち」宣言

1995（平成7年）
生涯学習センターオープン、センター内に長沢中学校併設
温泉周辺にコテージやテニスコートなどが完成
福寿野地区に防災ダム完成

1996（平成8年）
旧Aコープ建物を役場第二庁舎に
上長沢地区農業集落処理施設が完成
全町に防災行政無線が開局

1997（平成9年）
洲崎木工クラブフト館完成
あゆっこ村を(株)舟形町振興公社へ管理業務委託
町のホームページをインターネット上に開設

1998年（平成10年）
舟形小学校新校舎完成開校
リサイクルプラザもがみ完成、ゴミの有料化と分別回収始まる
広域農道「一ノ関大橋」完成
長沢中学校閉校

1999（平成11年）
鮎中間育成施設完成し記念放流
下長沢地区農業集落排水処理施設が完成
自動車専用道路の尾花沢新庄道路開通

2000（平成12年）
第3回全国雪サミット2000開催
エコ産業プロジェクト研究会が環境大臣表彰受賞

2001（平成13年）
20年ぶりの豪雪で人身事故、園芸ハウス被害が多発（堀内小積雪264cm）
農産物直売所「まんさく」オープン
紫山民間宅地造成「パープルエコタウン」分譲開始

2002（平成14年）
えんじゅ荘30床増床、ゆいの家完成
名誉町民の称号及び章を授与
住民基本台帳ネットワークシステム稼働開始

2003（平成15年）
県道舟形大蔵線「西の前アンダー」開通
新庄市・舟形町合併協議会設立
合併の是非を問う住民投票条例制定案、議会で全会一致で可決

2004（平成16年）
「新庄市との合併の賛否を問う住民投票」で合併反対が73.4%
新庄市・舟形町合併協議会廃止

村から町へ



堀内村役場と郵便局（明治時代）



大正時代の舟形駅前通り



舟形橋取り付け道路工事



舟形駅前貯鋳舎



長沢小運動会（昭和3年）



舟形大火翌年の本町通り（大正14年）



熊を射止める実栗屋地区民（昭和10年頃）



本町で行われた むかさり



長沢橋工事（昭和初期）



猿羽根山峠（昭和27年）



舟形小学校同級会（昭和24年）

歴代 舟形村長



初代 杉山 久治 氏



2代 北條 捨三 氏



3代 伊藤 幸藏 氏



4代 星川 小重郎 氏



5代 長岡 仙吉 氏



6代 寒河江雄助 氏



7代 山口 三藏 氏



8代 義 喜久次郎 氏



9代 大場 清行 氏



10代 溝口 藤美 氏



11代 曾根田源次郎 氏



12代 渡部 卓三 氏



13代 星川 徹太郎 氏